

大垣の農業法人と小売業者、各務原の酒蔵

ハツシモでブランド酒

来月から100本限定販売

大粒で弾力があり県内で長らく愛されてきたハツシモのブランド力を高めようと、大垣市と各務原市にある農業法人と酒蔵、酒類小売業者がコラボして新たな清酒「1000枚の田んぼ物語」を手掛けた。純米吟醸の無ろ過生酒を限定100本で来月から販売する。

(古家政徳)



大垣市と養老町の農地計180畝で耕作する農業法人西濃パイロット(同市中曾根町)が昨年秋に収穫した特別栽培米のハツシモを、「長良川」銘柄で知られる小町酒造(各務原市蘇原伊吹町)が仕込んだ。販売は三輪

酒造(大垣市船町)の関連会社、澤田屋本家が担う。県6次産業化サポートセンターの業務委託を受けるOKB総研(同市郭町)が仲介した。

清酒は720ミリリットル入りで1300円(税抜き)。問い合わせは澤田屋本家、電話0584(78)2201。

完成した「1000枚の田んぼ物語」(手前右)。購入者には西濃パイロットの特別栽培米(同左)が2合ずつ贈られる＝大垣市役所

関係者が22日に大垣市役所で会見し、西濃パイロットの木村嘉孝社長(50)は「若い人たちも農業だけで暮らしていけるだけの年収が確保できるよう、ハツシモを『売れる米』にしていきたい」と意欲。小町酒造常務で杜氏の金武直歩さん(47)は「酒米より個性が出しやすく飲みやすい酒に仕上がった」と語り、携わった県6次化サポートプランナーの横山順子さん(61)は名古屋市場は「農業者が農業を続けていくために、たくさんの人にお米を消費して農家を支えてほしい」と呼び掛けた。